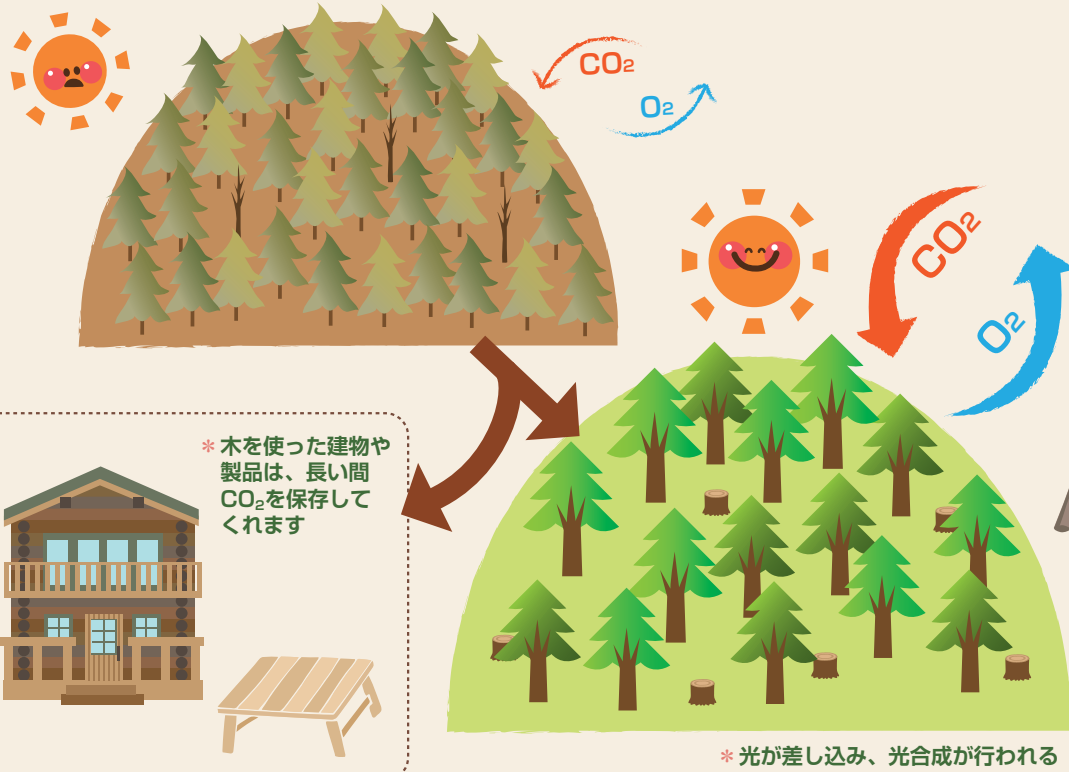


なぜなに やま・もり 山や森についてもっと知ろう!

温暖化対策に、木を伐る?

木は太陽光を浴びることで、光合成により二酸化炭素 (CO₂) を吸収し、酸素 (O₂) を放出する能力を持っています。しかし、地域の過疎化などによって、手入れが行き届かずに混み合った人工林が増えてきました。こうした人工林では光が差し込みず、光合成も十分に行われません。

適切に木を伐って使うことが地球温暖化対策になります!



一度人の手がいった森林は、人の手を加えることで私たちの生活環境を守ってくれます。

未来のために今、森林に目を向けてみませんか。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して手入れの遅れた森林を整備しています。

企業だって 森づくり♪

ぐるっと花笠の森【山形】 山形信用金庫

担当者の声



山形信用金庫 総務部 佐藤 元 俊 さん



下草刈り



キノコの植菌作業



恒例の芋煮会



参加者でパチリ

山形信用金庫では、環境問題への取組みとして、これまで建物の環境整備・クールビズ・ウォームビズなどによる省エネルギーへの取組み、ムダ・ムリを省いたコピー用紙の使用削減、一部再生紙(植林木)利用によるリサイクル対策など全国信用金庫協会の環境問題への取組みに合わせ実施してきました。

このような取組みの一環として、地球温暖化防止のため、CO₂の吸収源である森林の整備育成を平成二十二年から株式会社山形銀行さんと一緒に、「やまがた絆の森づくり」に参画し、山形県民の森(山辺町畑谷で、ぐるっと花笠の森【山形】の活動を始めました。参加者は、約六十名で年齢も十代から六十代まで幅広い年齢層となっております。

山辺町畑谷の山形県民の森での活動面積は二・五ヘクタールで、活動内容としては、植樹・下草刈りが主な活動です。初年度は、平成二十二年十月二十三日(土)に「ぐるっと花笠の森【山形】」除幕式を実施しました。その後県の方から、森についてのレクチャー「山形県民の森ってどんな森」を受け、森林組合の方から、間伐のデモンストラーションを実施していただきました。チェーンソーを使って、スギの木が倒れる迫力には参加者全員が圧倒されていました。平成二十二年からこれまで、森のホームステイ、しいたけ・なめこの植菌作業、森の学習会など、森と親しみながら環境貢献活動としての森づくり活動に取組みました。

今年度秋頃には、しいたけが収穫できる予定です。毎年、作業の後は、ほんのき広場に移動し、参加者全員で芋煮会(火は使わない)を実施、交流を図っています。この芋煮会は、毎年森づくりの活動の恒例事業となっております。このほか、「やまがた絆の森づくり」活動に参加して、森をもっと知りたいとの思いから、総務部の石原君が、平成二十八年七月に開催された「県民の森 森の案内人育成研修」を受講して「森の案内人」に登録されるという嬉しい出来事もありました。ぐるっと花笠の森【山形】の活動は、今年で八年目に入り、さらに森林環境の整備・保全を進め、美しい豊かな森や自然を未来の子供たちに引き継ぐとともに、活動を通して環境貢献(CO₂削減・低炭素社会)ができるよう活動内容の充実を図ってまいります。

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。平成30年6月末現在、37企業・団体、32箇所で開催中。

読者プレゼント

今治ポケットタオルと信ちゃん貯金箱を10名の方にプレゼントします。詳しくはP.11をご覧ください。